

2022.10.27 No414

おきがくろうニュース  
沖縄学校事務労働組合



自らの要求は自らの手で！

カンパ送付先

郵便振替 02090-0-2239  
沖縄学校事務労働組合

連絡先

e-mail:

okigakurou2017@gmail.com  
HP:okigakurou.web.fc2.com

## 楽しかった第49回全国学校事務労働者交流集会♪

＊1 「人・本・旅」(ひと・ほん・たび)＊

大手生命保険会社に長年勤務し、還暦を過ぎてから日本におけるネット生保のパイオニア的会社を起業後、現在は立命館アジア太平洋大学の学長となった出口治明氏といえば、異色の実業家にして当代随一の読書家・教養人として高名です。

氏によれば、「働き方改革」ひいては充実した人生を送るためには、「人・本・旅」という3つのキーワードが重要になるとのことです。

アイデアを出すためには脳に刺激を与える必要があります。インプットです。残業せずに仕事を効率的に切り上げて、「人・本・旅」で脳を活性化させる。たくさんの人に会う。たくさん本を読む。旅は、文字通りの旅行だけが旅なのではありません。遠近を問わず、人気を集めている店など、面白そうなところに足を運んでみるのが旅の本質です。

働き方改革とは具体的に何をどう変えるのかを僕の言葉で述べれば、「メシ・フロ・ネル」の生活を改め「人・本・旅」の生活に切り替えることです。

(出口治明「[論点3]日本人は働き方を変えるべきか」『自分の頭で考える日本の論点』幻冬舎新書、2020年、p.81)

筆者は、9月30日(金)から10月2日(日)までの日程で、福島県二本松市で開催された「第49回全国学校事務労働者交流集会」(以下「全交流」と略記)に初参加しました。全交流とは、本組合も加盟する全学労連(全国学校事務労働組合連絡会議)という独自組合の統一組織が主催するもので、全国各地から集まった同じ学校事務職員の仲間たちが、研究発表や情報交換をする交流集会です。今回の記事はその全交流の報告です。執筆当初は、当地での楽しい経験や勉強になった内容が盛り沢山で、一体何から手をつけてよいやらと悩んでいました。しかし、まさに「人・本・旅」がギュッとつまった全交流の思い

出をこれら3点にまとめると、読者のみなさんにとっても分かりやすく、また楽しく読んでいただけるのではないかと考えました。

＊2 「人」編：海千山千の仲間たち！＊

参加前から予想はしていましたが、とんでもなく濃い学校事務職員の諸先輩方を目の当たりにしてきました。全交流の日程中、学校事務に関するあらゆる議題において、討論や意見表明が活発に交わされたので、そのいくつかをご紹介します。

(1)「1日2分ずつ残業すると、ひと月では1時間分の残業代が請求できる！」

今の若い学校事務職員の中には、「自分には能力がないから」や「先生方には残業代が出ないから」などの理由で、日々遅くまで残業しているにもかかわらず、時間外勤務手当を請求しない傾向があるようです。そのような若手の自制の声に対して、「残業は勤務時間内に終わらないほどの業務量のせいであって、自己責任では全くないんだよ」ということを分かりやすく説明した発言でした。ひと月を20日として、それに2分を掛けると残業時間は「40分」となり、給与条例の運用により30分以上は切り上げですから、1時間分の残業代が請求できるというわけです。

(2)「学校事務職員はPでもTでもないじゃん！」

PTAについては、加入届を出していないのに勝手に会費を徴収される擬似的強制性や、学校からPTAへの生徒・保護者情報の違法な流出など、多くの議題が出されました。当の発言はPTA会費を支払っていない方によるもので、たしかに学校事務職員は、勤務校におけるP(父母)でもT(教員)でもありません。なぜ今まで思いつかなかったのだろうと、不思議に感じるほど目からウロコが落ち、PTA会費支払いの是非を再考するキッカケともなりました。

(3)「福事労といえばお茶くみ、お茶くみといえ  
ば福事労」

1992年に結成した福事労（福島県学校事務労働組  
合）は、設立当初から「ジェンダー委員会」を発足  
させるなど、現在から考えてもかなり先進的な取組  
みをしてきた団体です。かつては管理職から主に女  
性の学校事務職員に対して、当然のように求められ  
てきた「過剰な接待」（お茶くみや手作りお味噌汁  
の準備まで！）について、学校現場や団体交渉の中  
で明確に拒否の姿勢を示してきた地道な活動の発表  
がありました。具体的で実行力のある組合活動のひ  
とつの理想を、全学労連でも最多の組合員数を擁す  
る福事労のこれまでの歩みに見た思いがしました。

(4)「教員は忙しいから事務職員がやっつけ、事  
務職員のしんどさは事務職員間で何とかしろ！そん  
な構造を制度化したのが共同実施・共同学校事務室  
なのではないだろうか」

緻密な学校事務に関する研究や、活発なSNS等によ  
る情報発信によって、全学労連における若手ホー  
プと目されている方の発言です。その研究において、  
現在とりわけ学校事務職員への転嫁が進められてい  
る業務は、学校徴収金・学籍転出入・教科書給与の  
3つであることが発表されました。

それを受けて、本県を含む4県の代表者による共  
同実施・共同学校事務室の設置状況などが報告され  
ました。当局による教員優先の発想や人員削減の本  
音など、各県ともに暗い内容が続きましたが、その  
後の活発な意見交換において、「始まってしまった  
制度を現場レベルでいかに骨抜きにするか！」とい  
う新たな視点も共有され、とても有意義な討論とな  
りました。

\*3「本」編：趣味の読書が結んだ大切なご縁\*

筆者が今回の全交流の中で特に仲良くさせていた  
だいた方がいます。元々は乗馬クラブだったという  
広い敷地にご自宅があり、かつて厩舎だった建物を  
現在ではキレイに改造し、ビックリするほど多くの  
本が並ぶ書庫とされています。弁証法や組織論の研究  
で著名な言語学者の三浦つとむ、在野の政治学者  
で前人未到の国家論を打ち立てた滝村隆一、子ども

の考える力を養う仮説実験授業を提唱した科学史家  
の板倉聖宣（きよのぶ）など、多くの読むべき本や  
著者を教えていただきました。「手に入れた本はど  
うしても捨てられない！」といった悩みや、昔よく  
いた古本屋店主の怖いオヤジとの思い出など、読書  
好きあるある話をタップリと楽しみました。

また、会場がある二本松市には、カメヤ書店とい  
う地元の本屋さんがあります。雰囲気のある小体な  
お店で、選書が素晴らしく、『村上さんのところ』  
のイラストを手がけたフジモトマサルの漫画作品  
や、徳島県でコーヒー豆店を営むロースター（焙煎  
士）によるエッセイの佳品との出会いがありました。

\*4「旅」編：東日本大震災のあとさき\*

全交流におけるオプショナルツアーとして、東日  
本大震災の遺構として一般公開されている「福島県  
浪江（なみえ）町立 請戸（うけど）小学校」と原発事  
故の経緯を知ることができる「東日本大震災・原子  
力災害伝承館」の見学に参加しました。

前者の小学校の倒壊ぶりを実際に目にすると、津  
波の被害の凄絶さに思わず唖然としてしまいます。  
重厚な金庫が転倒し、分厚い壁が破碎され、泥やサ  
ビに塗れたあらゆる学校用具をつぶさに観察する  
と、教職員の迅速な判断と児童の協力により、学校  
から1.5キロ離れた大平山に全員無事に避難できた  
ことを、あらためて奇跡のように感じました。

後者の施設では、地震と津波の発生から今日の「復  
興」にいたるまでの来歴が、網羅的な資料と物品の  
収集、分かりやすい展示とスタッフによる丁寧な説  
明により、広々と一望できるものとなっていました。  
個人的には、震災前に地元（双葉町）の小学生によ  
って考案された「原子力明るい未来のエネルギー」  
という標語や、習字作品にあった「原子力の利用」  
という美しい文字に複雑な哀感を覚えました。

これからも自分事として、福島県をはじめとした  
被災地のことを考え続けようと思います。

紙幅の関係でまだまだ書ききれない思い出が沢山  
あります！沖学労は全国の学校事務職員の仲間たち  
とともに、「自らの労働条件は自らの手で」を合い  
言葉に、これからも楽しく活動していきます！